



## 国語力で人を育てる

学校では名前がわかるように名札をつけるルールがあります。朝、登校してすることの1つです。子どもが落ちている名札を拾ったのでしょうか、前を歩く子どもを呼び止めて、「名札をどうぞ」と手渡ししていました。こうすると名札を気持ちよく受け取れます。届けてくれてうれしいなと思います。「名札をどうぞ」ではなく、「名札はつけないとだめだよ。」と言ってしまえば、うれしいなと思えません。「名札をどうぞ」とていねいなことばが使えるのは、日々の家庭や学校での生活の中で、ことばを大事にする指導ができているからです。学校では、ことばを大事に使うことの大切さやていねいに使う良さに気づかせるようにします。

教室に行くとAくんが、ぼくはBくんにたたかれましたと言ってきました。何があったのですかと質問をしました。

A：ぼくは何もしていないのに顔をたたかれました。

B：ぼくはたたいていません。

話がかみ合わないのではじめの出来事から順番に話をさせました。

B：一緒に遊ぼうと思って、Aくんと肩を組もうとして手を出しました。

どうすればよかったと思いますか？

B：一緒に遊ぼうと言えばよかったと思います。

A：Bくんのそばに行かずに、さっさと体育着に着替えればよかったと思います。

B：ぼくもAくんとしゃべらずに、次の体育の準備をすればよかったと思います。

ていねいなことばで順序よく話をすれば、ことばでわかり合えます。自分の考えも明らかになってきます。最後に、こういうときは「たたかれる」ではなく、「手が当たる」と言うのですよと教えて、国語の勉強を終えました。

算数でも国語でも授業で異なる考えを発表することがあります。Aさんの考えに対して、私の考えはAさんと違います。私は〇〇だと思いますと言いました。こうした子どもの思考の違いは深い理解になるチャンスです。2人の考えはどうして違うのですかと質問すれば、Aさんの意見は、きつこう考えたのだと思いますと人の考えを想像して答えることがあります。仮にAさんの考えが間違っていたとしても、Aさんのように考えた人は他にもいるはずで、間違いで終わるのではなく、間違いから学ぶのも授業です。話し合うことでお互いの考えが明らかになって、どちらかの考えの違いに気づきます。間違いと思っていたが実は多数意見の方が間違っていたこともありますし、2つの考えから新しいもっと良い考えが生まれることもあります。国語力で授業が深まり、信頼関係も深まります。

ていねいなことば使い、ことばを大事にすることができれば、人間としてより良い行動をとるようになります。休み時間でも授業でも、みんなで学ぶようになります。国語力があれば、ことばで自分の考えも人の考えも明らかになり、わかり合えます。国語力は自己を高め、人間として生きる力となります。